

明けておめでとうございます

本年もどうぞよろしく

お願い申し上げます

新しい年とともに表紙・扉のデザインを新しくしました。いかがでしょうか？

津守たたえ、堀合文字両先生とも

『幼児の教育』誌とは昔から親しんでおります。お役に立てば」と心よくお引き受けいただき、編集委員の先生がたともども、作品のできあがるのを楽しみにしておりました。今年は、もっと現場の先生がたの声や、子どもの様子を織り込みたいと気持ちばかりが高ぶりますが、どうなりますことやら。

ある幼稚園での話。

幼稚園や母の会で主催する講演会、音楽会などへの母親の参加が近年とみに増えている。この園では保育中に行うことが多いが、保育後に行う時は卒園生の母による託児（園児）を用意する。

母親の参加が増え、子育ての日常の中で、ひとときの豊かな時間を求め、得られることは大変良いことなのだが、いつもここで問題になるのが未就園児の扱いである。別室にビデオの部屋を設けてあるのだが「未就園児の託児をなぜしない」と毎回声が上がる。「ちょっと待ってほしい。ここは幼稚園である。それにそんなに簡単に、入園前の子どもをはじめのの人に預けていいのですか。」と言いたくなるが、どうもこちらの論理は通用しない。条件は悪いが、母子でビデオの部屋できき、子どもの様子を見て静かにできるような会場に入るといふ事はどうして思いたらないのだろうか。

家事・育児の合理化、少子化、体力の向上などで、母親の社会参加も可能になったが、反面、核家族化、近所づきあいの貧困さと共に、我子と我身に合った身の処し方という最も母親に備わっているほしい特性を自ら放棄する人が多いように思うのは私だけだろうか。（Y）

幼児の教育 第八十八巻 第一号

一月号 ©

定価 四〇〇円

昭和六十三年十二月二十五日 印刷

昭和六十四年 一月 一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 本 田 和 子
発行人

東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都港区三田五ノ一二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一一九六四〇番

TEL・二九二一七七八一代

◎本誌御購読についての御注文は発売所 フレーベル館にお願いいたします

※万一製造不良の点がございましたら、おとりかえいたします。